

Fujikura Kasei Group

Sustainability Report

サステナビリティレポート

2026



Contents

Introduction

- 02 サステナビリティレポート 2026 の重要ポイント
- 03 理念体系（経営理念と存在意義）
- 04 藤倉化成の概要

Chapter 1 ビジョンと事業戦略 Vision and Business Strategy

- 06 トップメッセージ
- 09 中期経営計画とサステナビリティ
- 11 事業ポートフォリオ戦略：コーティング事業
- 12 事業ポートフォリオ戦略：塗料事業
- 13 事業ポートフォリオ戦略：電子材料事業
- 14 事業ポートフォリオ戦略：化成品事業
- 15 事業ポートフォリオ戦略：合成樹脂事業
- 16 生産分野
- 17 特集 1：技術部門座談会 社会課題に「化学の力」で挑む



Chapter 3 成長の基盤強化 Strengthening the foundations for growth

マテリアリティ：化学の力で未来を創る

- 28 気候変動への対応 / 健康増進と余暇の充実
- 29 快適便利な暮らしと住まい / 豊かで安心なインフラ
- 30 DX 社会の実現 / モビリティ環境の変化
- 31 脱炭素
- 32 廃棄物低減
- 33 省エネ
- 34 水資源の保全
- 35 化学物質管理
- 36 気候変動への対応 (TCFD 提言に基づく情報開示)

マテリアリティ：社会

- 37 人的資本経営の実現
- 38 従業員の働き方と健康
- 39 人権の取り組み
- 40 労働安全衛生
- 41 DX の推進
- 42 CSR 調達
- 43 Focus：品質活動
- 44 Focus：地域社会 / 社会貢献
- マテリアリティ：ガバナンス
- 45 コンプライアンス
- 46 リスクマネジメント



Chapter 2 価値創造とマテリアリティ Value Creation and Materiality

- 20 価値創造モデル
- 21 価値創造の変遷
- 23 マテリアリティ
- 25 サステナビリティマネジメント
- 26 特集 2：サステナビリティ推進部長インタビュー



Chapter 4 コーポレートデータ Corporate Data

- 49 コーポレート・ガバナンス
- 51 財務ハイライト
- 52 非財務ハイライト
- 53 グループ会社の概要
- 54 会社情報 / 編集方針



本レポートの使い方 上部メニュー：各 Chapter のトップへ移動します

目次ページへ移動します 前の表示へ移動します 前のページへ 次のページへ

Introduction サステナビリティレポート2026の重要ポイント

サステナビリティレポート2026のテーマ

「サステナビリティレポート2026」は、2025年度に策定した藤倉化成グループのマテリアリティを軸に構成しています。多様な社会課題が存在する中で、当社グループが優先的に取り組むべき社会課題「化学の力で未来を創る」に加え、それを支えるグループとしての企業の社会的責任であるCSRもマテリアリティの構成要素として位置付けています。

本レポートでは、経営理念・存在意義に基づく中期経営計画および事業戦略の実現に向けたマテリアリティを、「化学の力で未来を創る」「E（環境）」「S（社会）」「G（ガバナンス）」の4つの視点で整理しています。

マテリアリティに関する考え方や取り組みを中心に、当社グループの今後の方向性について、ご理解いただけるよう編集しています。

注目のコンテンツ

P17-18 技術部門座談会

マテリアリティに対して当社の技術がどのように貢献しているのかについて、当社の歴史を振り返りながら、技術部門責任者による対談形式で紹介しています。

P28-30 マテリアリティ「化学の力で未来を創る」

新たに設定したマテリアリティ「化学の力で未来を創る」テーマの実現に貢献する当社製品及び担当者の声を紹介しています。

P39 人権の取り組み

人権デューデリジェンスに関する取り組みを、新たに掲載しています。

サステナビリティレポート2026の論理構成体系

本報告書は藤倉化成の価値創造モデルや事業戦略、マテリアリティを説明するために下図の論理構成をもとに編集しています。

価値観

経営理念と存在意義は、当社が目指す姿と大切にする価値観を示し、持続的な価値創造の基盤となっています。

☑ 経営理念／存在意義／2030年のありたい姿
P3

中期経営計画

当社の価値観を基盤として持続的な成長と価値創造を実現するため、2030年のありたい姿を定めるとともに、その実現に向けた中期経営計画を策定しています。

☑ 第12次中期経営計画 ☑ 価値創造モデル
P10 P20

事業戦略

2030年のありたい姿の実現に向け、中期経営計画に基づき、事業ポートフォリオ戦略を推進しています。

☑ 事業ポートフォリオ戦略 ☑ 生産分野
P11-15 P16

開発・生産

研究開発、工場リニューアル、生産現場の向上を通じて、持続的な価値創造を支える基盤づくりを進めています。

☑ 研究開発 ☑ 品質活動 ☑ 人的資本経営
P17-18 P43 P37

マテリアリティ

経営全体を通じて取り組む重要課題として位置付けています。



化学の力で未来を創る

- ☑ 気候変動への対応
- ☑ 健康増進と余暇の充実
- ☑ 快適便利な暮らしと住まい
- ☑ 豊かで安心なインフラ
- ☑ DX社会の実現
- ☑ モビリティ環境の変化

環境

- ☑ 脱炭素
- ☑ 廃棄物低減
- ☑ 省エネ
- ☑ 水資源の保全
- ☑ 化学物質管理

社会

- ☑ 人的資本経営の実現
- ☑ 従業員の働き方と健康
- ☑ 人権の取り組み
- ☑ 労働安全衛生
- ☑ DXの推進
- ☑ CSR調達
- ☑ 品質活動*
- ☑ 地域社会/社会貢献*

ガバナンス

- ☑ コンプライアンス
- ☑ リスクマネジメント

※「品質活動」「地域社会 / 社会貢献」はマテリアリティには含まれませんが、重要な取り組みとして記載しています。

Introduction 理念体系

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

行動指針

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、創出する喜びを分かち合います。
 私たちは、失敗を恐れず、常にチャレンジャーであり続けます。
 私たちは、お客様と誠実に向き合い、信頼される存在を目指します。
 私たちは、こだわりと思いやりをもって、心地良さの実現を追求します。
 私たちは、法とその精神を守り、安心・安全なものづくりを約束します。



当社は、社会や環境の課題解決に貢献することを使命とし、高度な化学技術を通じて暮らしの安全・安心を支え続けてきました。
 このたび、改めて社会視点に立ち、自社の社会的な存在価値を探究することで、その意義を言語化した「存在意義」を策定。
 経営理念とともにこの「存在意義」を軸に据え、事業活動を推進し、持続可能な未来に向けた価値を創出していきます。

仕事に向き合う姿勢 (内部の行動指針)

経営理念

ともに挑み ともに繋ぐ
 常にお客様目線で上質な価値を創出する

《 私たちが
大切に仕事に向き合う姿勢 》

2030年の
ありたい姿

**共創 × 進化 × 化学の力で
新たな価値を提供する**

《 私たちが
将来的に目指す会社の姿 》

社会へ果たす役割 (外部への約束)

存在意義

**化学の力で未来を創り、
技術と信頼で社会に貢献する**

《 私たちが
社会において存在する意義 》

Introduction 藤倉化成の概要

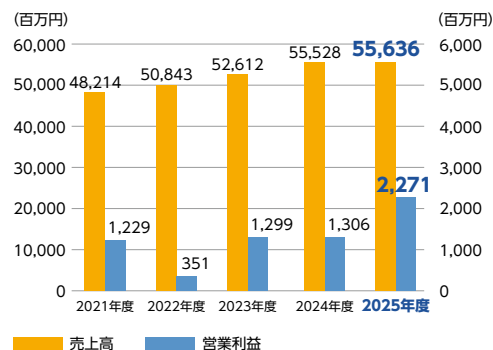
数字で見る藤倉化成



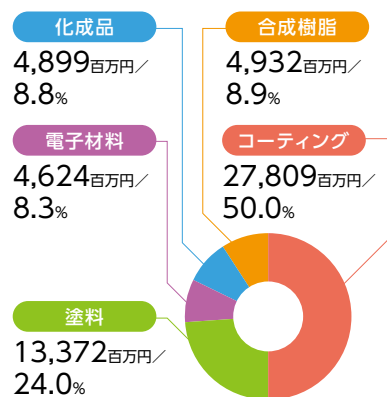
2026年3月31日現在

売上収益の構造

売上高・営業利益



セグメント別売上高・売上高構成比



事業展開

当社グループはアクリル樹脂技術を基盤に、社会の持続的成長に貢献する化学メーカーです。5つの事業を通じてプラスチック用塗料や建築用塗料、導電性樹脂、機能性樹脂、メディカル材料など、高付加価値の製品を展開しています。「塗料配合技術」「樹脂合成技術」の基盤技術、そして機動力や供給力を強みに、お客様や社会に新たな価値を提供します。

事業展開

